



●Tackle Guide
 竿は全長1.8メートル前後のキス専用竿がベスト。これにスピニングリールのセットが一般的だが、仕掛けは片テンピン式でも胴つき式でもお好みで。オモリは15〜20号。エサはアオイソメを5センチ前後にカットしてハリスにチョン掛けが基本。

本来、落ちの時期は水温の低下に伴い体力のある良型が中心に釣れてくるのだが、天ぷらサイズが多いのはやはり水温が高めなのが影響しているのだろう。

しばらくポツポツ状態が続いていたが、次第に風も強まりウネリも増してきてアタリも少なくなってきた。

「潮が流れていないから食いが悪いですね」船長も状況の悪さに恨めしそう。常連さんもアタリがなくなったよと少々嘆息してある。

それでもキャストして広範囲に探るベテランはコンスタントに数をのぼしているから魚がいるのは間違いない。これがナギの好条件ならと思っただけだが、こればかりはどうしようもない。条件の悪いときは拾い釣りで数をのぼすのが小物釣りの定石といえるだろう。

また、仕掛けを替えたりするのも有効。この日は片テンピン式と胴つき式の方が半々だったが、周りの釣れ具合を見てよく釣れている仕掛けに替えてみるのも効果的だ。

▼20センチ以上の良型は刺身がおすすめ



後半は食いが活発に

それでもなんだかんだと午前中でいい人は一人30尾前後釣っているからこの時期としては決して悪い釣果ではない。このまま天気と状況は回復しないのかと不安だったが、釣りは面白いもので、昼近くには上げ潮に変わった途端に食いが活発になってきた。

風も弱まりウネリもほとんど小さくなって足元もしっかりとしてキス日和に変わっていき。

竿先をククッと小気味よく引き込むアタリが傍で見えている私にも確認できるほど活発になってきたし、リールが回ってきた仕掛けの先にシロギスがぶら下がる確率も俄然高くなってまさに好機到来。しかもサイズが一回りから二回

りアップして18センチ前後のフライサイズが中心となった。ゲストもイトヒキハセからイシモチに変わりクローラーも重たさを増している。

一度は竿を取めたお客さんや酔いでダウンしていた親子連れの方も復活してお土産確保にいそむ。

結局キスの食いは午後3時の沖揚がりまで続き、14〜22センチを一人10〜73尾。トップはお二人で、ほかに手慣れた方は40〜60尾前後。ゲストにイシモチやトラフグなどと終わってみれば上々の釣果であった。

最後に鈴木船長は、「魚はいっぱいいますから、日並みがよければ今日以上の釣果は期待できますよ。浅場で釣れているのが数釣りのチャンスです」と頼もしい一言

●船宿information
 東京湾奥羽田大師橋際
かめだや
 ☎03-3741-1258
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=シロギス乗合一人9000円(エサ、氷付き)女性、子供割引あり
 ▶備考=予約乗合、7時40分出船。駐車場完備。JR蒲田駅から送迎あり



をいただいた。
 魚偏に喜ぶと書いて鱧(キス)だけに、小物釣りファン
 の竿納めや初釣りのターゲット
 にもイチオシだ。



▲東京湾のシロギスは年末年始も大いに期待できる
 ▼ベテランは食いがいい流しで手返しよく釣って数をのぼしていた

寒さも一段と厳しくなり東京湾のシロギス釣りが落ちのシーズンを迎えるころだ。

ここ何年か不調だったシロギスだが、今シーズンは魚影も濃く、夏場の最盛期には一東(100尾)超えも多々あるなど久びさのにぎわいを見せていた。

小さな魚体に似合わずパワフルな引きと食味のよさで人気を集めるだけに、夏場に天ぷらをたっぷり賞味されたファンも多いことだろう。

ほぼ周年釣れるシロギスだが、これから冬に向かつては越冬のため脂を蓄えたグラマラスボディの魚体が竿先を震わせてくれる。

通常は夏場に湧きがよくればそのままの勢いが落ちの季節にも移行するのだが、こればかりはやってみないと分からない。ならばと11月27日に東京湾奥羽田大師橋際の「かめだや」へと釣行した。

同宿はシーズンを通してシロギス釣りの乗合船を出船しているが、冬の落ちギス釣りでは昔から定評があり、ベテランからビギナーまで多くの釣り人に人気の老舗船宿だ。

送迎バスで宿に着いたのが午前7時過ぎ。親方にあいさつしてから船着き場に行くところから船担当の鈴木祥太郎船長がお待ちかねだ。

朝のあいさつでは、



**冬でも浅場で食い上々！
木更津沖のシロギス好調**

「昨日取材に来てくれればよかったのに。トップは96尾釣りましたよ」とのっけから勢いがいい。こりゃ今日も期待できそうだなとすでに皮算用である。

当日は女性やお子さん連れもいて、ベテランから初心者まで14名のお客さんが集まり、

定刻の7時半に出船となった。
ポイントは浅場が主体。多摩川を下り海へ出てから50分ほどかけて船は木更津沖へと進む。鈴木船長の話では、「まだ水温が高めで深いところに落ちていないんです。夏の延長みたいですよ」とのこと。釣り開始の合図とともに出された、

「水深は15メートル前後です」とのアナウンスがそれを物語る。

当日は風が強くウネリもあってキス釣りには残念な日であった。雨予報の前日を回避して日曜日に出かけたのが裏目に出たのかと心配したが、意外にもキスの食いは思ったほど悪くない。

竿入れしてすぐに船中あちこちでパタパタと釣られてきて出足は上々だ。

ただ船の揺れが大きく、釣りをするのも画撮りをするのも大変な状況。
 それでも15〜16センチ前後の天ぷらサイズを中心に、お刺身クラスの20センチ級も交じり飽きない程度に釣れる。

知得! Tips and Tricks
エサの滑り止めにパン粉がおすすめ

冬場かじかんた手でニョロニョロ動くアオイソメをハリ付けするのは難儀する。滑り止めに細かくしたパン粉をエサに混ぜて使うと便利だよと常連さんに教えていただいた。興味ある人はお試しあれ。

▶パン粉は生でも乾燥タイプでもOK

●たけかわ けいじ/キスの糸造りに塩昆布をあえるのが私のトレンド。キス昆布でおいしさに喜ぶのである!